

問1 21世紀以降の日本の農業に関する統計において、2005年から2015年の10年間で、農業就業人口は約330万人から約200万人へと大幅に減少し、経営耕地面積の合計も約470万ヘクタールから約440万ヘクタールへと減少しています。このような日本の農業の現状を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 大阪公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 農業就業人口が減少する中で、特に65歳以上の割合が極めて高い高齢化が進行しており、それに伴って経営耕地面積も減少傾向にある。 | 2. 若者の新規就農者が急増したことで農業就業人口の若返りが進んでいるが、宅地開発の影響で経営耕地面積のみが減少している。 | 3. 農業の機械化や大規模化が進んだ結果、農業就業人口は減少したが、一戸あたりの耕地が拡大したため経営耕地面積の合計は増加している。 | 4. 農業就業人口は横ばいであるが、海外からの安価な農産物の輸入が増えた影響で、国内の経営耕地面積を意図的に減らしている。 |
|---|---|--|---|

問2 日本の発電所の分布について、火力発電所が東京湾、伊勢湾、大阪湾などの海岸線沿いに集中している主な理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 石炭や液化天然ガスなどの燃料を海外から輸入するのに便利のため | 2. 水力発電と同様に、大量の真水を冷却水として確保しやすいため | 3. 内陸部に比べて地価が安く、広大な敷地を確保しやすいため | 4. 太陽光や風力などの再生可能エネルギーを効率よく利用できるため |
|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|

問3 日本における「少子高齢化」の推移と、それに伴う人口構成の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 65歳以上の高齢者人口が増加し続ける一方で、経済の支え手となる生産年齢人口は減少しており、社会保障制度の維持が課題となっている。 | 2. 0歳から14歳の年少人口が増加に転じているため、将来の労働力不足は徐々に解消される傾向にある。 | 3. 高齢者人口が1985年頃から減少を始めたことで、生産年齢人口の割合が相対的に高まり、人口ボーナス期を迎えている。 | 4. 年少人口と高齢者人口がどちらも同程度の勢いで減少しているため、人口ピラミッドは安定した釣鐘型を維持している。 |
|---|--|---|---|

問4 日本の輸入額における輸送手段の割合を示した統計では、海上輸送が全体の約7割という高いシェアを占めています。海上輸送が、原油や鉄鉱石といった資源の輸入において、航空輸送よりも優先的に利用される理由として最も適切な説明を選んでください。 (2020年 岐阜公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 航空輸送に比べて輸送費用が安く、重量のある貨物を一度に大量に運ぶことができるため | 2. トラック輸送に比べて、内陸にある工場や消費地まで直接かつ迅速に商品を届けられることができるため | 3. 集積回路 (IC) や貴金属などの軽量で高価な製品を、品質を維持したまま短時間で運ぶのに適しているため | 4. 気象条件の変化による影響を全く受けないため、分刻みの極めて正確な到着時刻を保証できるため |
|---|--|--|---|

問5 日本の都道府県別の就業者構成を分析した際、東京都や大阪府などの都市部で特に高い割合を示す産業区分があります。卸売業や小売業、医療・福祉、情報通信業に従事する人々が含まれるこの産業区分の特徴について、正しい説明を選びなさい。 (2018年 京都公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 自然に働きかけて資源や作物を採取し、生活の基礎を支える産業 | 2. 原材料を加工して機械や建物を造り出し、物質的な豊かさを生む産業 | 3. 物資の輸送、情報の提供、商品販売などのサービスを提供する産業 | 4. 地下資源を採掘し、エネルギーを供給することで産業全体を支える産業 |
|----------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|

問6 日本の輸入資源のうち、オーストラリア、マレーシア、カタールなどが主な輸入先となっており、気体の状態で産出したものをマイナス162℃まで冷却し、液体にして運搬される資源はどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------|
| 1. 原油 | 2. 液化天然ガス | 3. 石炭 | 4. 地熱 |
|-------|-----------|-------|-------|

問7 レタスの産地と出荷時期の関係について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、長野県と沖縄県の出荷状況を比較した統計では、一方が夏から秋にかけて出荷を集中させる一方で、もう一方は冬から春にかけて出荷を主に行うという特徴が見られます。 (2024年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 長野県などの高冷地では、夏の涼しい気候を活かして5月から10月頃に多く出荷される。 | 2. 沖縄県などの温暖な地域では、冬の暖かさを活かして8月前後の夏場に最も多く出荷される。 | 3. 長野県と沖縄県は、出荷時期をあえて12月から2月の冬期に重ねることで、市場を独占している。 | 4. すべての産地が一年中均等に出荷できるよう、気温の変化に関わらずビニールハウスのみで栽培されている。 |
|--|---|--|--|

問8 東北地方の太平洋沿岸や千葉県の銚子付近には、水揚げ量の多い主要な漁港が集中しています。これらの地域で漁業が盛んである自然環境上の理由について述べた文として、最も適切なものを選択してください。 (2016年 愛媛公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 暖流の日本海流 (黒潮) と寒流の千島海流 (親潮) がぶつかる「潮目 (潮境)」があり、好漁場となっているため。 | 2. 広大な大陸棚が広がり、一年中波が穏やかな内海であるため、大規模な養殖業が発展しやすい環境にあるため。 | 3. 季節風の影響を全く受けない複雑な海岸線を持っており、大型の漁船が安全に停泊できる天然の良港が多いため。 | 4. 水深が非常に深い海溝が沿岸近くまで迫っており、深海に生息する希少な魚介類を効率よく漁獲できるため。 |
|--|---|--|--|

問9 日本の主要な貿易拠点における輸出品目の特徴をまとめたデータにおいて、千葉県に位置する成田国際空港と、神奈川県に位置する横浜港の輸出に関する説明として正しいものはどれですか。 (2018年 兵庫公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 成田国際空港では通信機や医薬品などの高付加価値製品が、横浜港では完成車などの自動車が必要な輸出品目となっている。 | 2. 成田国際空港では鉄鋼や石油化学製品が、横浜港では集積回路や電子部品が主な輸出品目となっている。 | 3. 成田国際空港では自動車本体が、横浜港では原油や液化天然ガス (LNG) などのエネルギー資源が主な輸出品目となっている。 | 4. 成田国際空港では衣類や食品品などの軽工業製品が、横浜港では鉄鉱石や石炭といった原料が主な輸出品目となっている。 |
|---|--|---|--|

問10 日本各地の工業地帯の分布を分析すると、石油精製所や化学工場などの関連工場が特定の地域に集まり、原料から製品までを一貫して生産する仕組みが見られます。このような工場の集合体を何と呼びますか。 (2023年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------|--------------|---------|-----------|
| 1. 石油化学コンビナート | 2. 先端技術産業集積地 | 3. 工業団地 | 4. 加工貿易拠点 |
|---------------|--------------|---------|-----------|

問11 中国、ドイツ、インド、イギリスの4か国における2010年と2018年の発電エネルギー源別割合の変化を比較したとき、これらすべての国に共通して見られる傾向として正しいものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|--|-------------------------------------|
| 1. 風力発電と太陽光発電が占める割合が、いずれも増加している。 | 2. 水力発電が占める割合が、火力発電を上回るほど増加している。 | 3. 二酸化炭素を排出する火力発電の割合が、すべての国で5割以下に減少している。 | 4. バイオマス発電の割合が、太陽光発電の増加率を大きく上回っている。 |
|----------------------------------|----------------------------------|--|-------------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 農業就業人口が減少する中で、特に65歳以上の割合が極めて高い高齢化が進行しており、それに伴って経営耕地面積も減少傾向にある。	日本の農業は、従事者の大幅な減少と高齢化という二つの大きな課題を抱えています。2005年から2015年の統計を見ると、農業を主な仕事とする人は100万人以上減少しており、その多くを65歳以上の高齢者が占めています。労働力の不足や後継者難により、適切に管理・経営される農地である経営耕地面積も、全国的に減少を続けています。
問2	答え 1 石炭や液化天然ガスなどの燃料を海外から輸入するのに便利のため	日本の火力発電は、その燃料となる石油、石炭、液化天然ガス（LNG）のほとんどを海外からの輸入に頼っています。そのため、大型タンカーが直接接岸できる臨海部に発電所を建設することで、輸送コストを抑え、効率的に燃料を運び込むことができます。また、臨海部には大都市や工業地帯が隣接しており、電力の消費地に近く送電ロスが少ないという利点も重なっています。
問3	答え 1 65歳以上の高齢者人口が増加し続ける一方で、経済の支え手となる生産年齢人口は減少しており、社会保障制度の維持が課題となっている。	日本の人口推移では、医療の進歩などにより高齢者人口が増加する一方、出生率の低下によって年少人口が減少し続けています。これに伴い、働き手である生産年齢人口も減少しており、少数の現役世代で多くの高齢者を支える必要があるため、年金や医療といった社会保障制度のあり方が議論されています。
問4	答え 1 航空輸送に比べて輸送費用が安く、重量のある貨物を一度に大量に運ぶことができるため	海上輸送は、船舶を利用して大量かつ重量のある貨物を低コストで運ぶのに適した輸送手段です。日本のように資源の多くを海外に依存している国にとって、原油や石炭などのエネルギー資源や鉄鉱石といった重量物を効率よく輸入するためには、一度に大量の積載が可能な海上輸送が国際貿易の主力となります。これに対し、航空輸送は速度は速いものの費用が高いため、軽量で高付加価値な製品の輸送に限られるのが一般的です。
問5	答え 3 物資の輸送、情報の提供、商品販売などのサービスを提供する産業	都市部では人口や企業が集中しているため、商業（小売・卸売）や教育、医療、情報サービスなどの需要が非常に大きくなります。これらの第3次産業は「形のある物」そのものを生産するのではなく、利便性や知識、技術といった無形の付加価値を提供することが大きな特徴です。
問6	答え 2 液化天然ガス	天然ガスは気体のままでは体積が大きいため、超低温に冷却して液体（Liquid Natural Gas = LNG）にすることで体積を600分の1にし、専用のタンカーで輸入しています。輸入先はオーストラリアやマレーシアなどのアジア・オセアニア地域が中心です。
問7	答え 1 長野県などの高冷地では、夏の涼しい気候を活かして5月から10月頃に多く出荷される。	日本のレタス栽培は、産地の気温などの自然条件を最大限に活用しています。長野県などの標高が高い地域（高冷地）では、夏の涼しさを利用して栽培が行われるため、出荷時期は5月から10月に集中します。これに対し、沖縄県などの温暖な地域では、長野県が出荷できない冬から春の温かさを活用して栽培が行われます。このように産地ごとに時期をずらすことで、消費者は一年中レタスを手に入れることが可能になります。
問8	答え 1 暖流の日本海流（黒潮）と寒流の千島海流（親潮）がぶつかる「潮目（潮境）」があり、好漁場となっているため。	東北地方から関東地方にかけての太平洋沖は、南からの暖流（黒潮）と北からの寒流（親潮）が交わる「潮目」と呼ばれます。ここにはプランクトンが豊富に発生するため、暖流系と寒流系両方の魚が集まる世界的な好漁場となっています。この地理的条件が、沿岸部にある銚子港や石巻港、八戸港などの水揚げ量を支える大きな要因となっています。
問9	答え 1 成田国際空港では通信機や医薬品などの高付加価値製品が、横浜港では完成車などの自動車が出荷対象となっている。	成田国際空港は、航空機を利用して小型・軽量で価格が高い「高付加価値製品」を輸送する拠点となっており、通信機や医薬品、電子部品などが輸出の上位を占めます。一方、横浜港は京浜工業地帯に隣接する歴史ある港であり、自動車（完成車）などを大型船で輸出する拠点として機能しています。自動車の輸出額では名古屋港が全国1位であることが多いですが、関東では横浜港がその重要な役割を担っています。
問10	答え 1 石油化学コンビナート	原油を蒸留してガソリンやナフサなどの製品を作る「石油精製」と、そのナフサを原料にプラスチックや合成ゴムなどを作る「化学工業」が結びついた形態を石油化学コンビナートと呼びます。これらは生産効率を高めるために、関連する工場がパイプラインで結ばれて一つの巨大なシステムとして機能しており、日本では輸入の利便性からそのすべてが臨海部に位置しています。
問11	答え 1 風力発電と太陽光発電が占める割合が、いずれも増加している。	地球温暖化対策として、世界的に再生可能エネルギーへの転換が進んでいます。特に中国、ドイツ、インド、イギリスといった主要国では、2010年から2018年にかけての統計において、風力発電と太陽光発電の割合が共通して上昇していることが特徴です。これは、持続可能な社会の実現に向けて、二酸化炭素を排出しない発電方法の導入が強力に推進されている背景を反映しています。